

提案26 WATER POWERが街・人を変える ~ 行政と住民による水環境の創造 ~



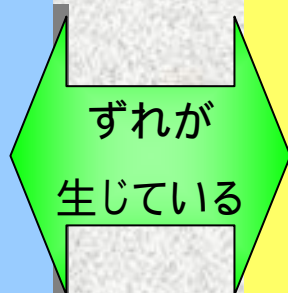
行政が感性社会資本を提供し、その後地域住民自身がニーズに適した形に造ったり、管理をすることで地域に根ざした社会資本の創造、継続的な維持管理が可能になる。

背景

- ・ 住民と行政の水環境に対する判断基準の違い
- ・ 産業経済の進展 自然との共生や環境と調和した生活への意識の変化(心の豊かさ)
- ・ 住民の環境負荷の認識不足、下水道に対する誤解 等

行政の判断基準

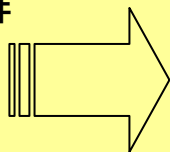
水質や衛生面の安全性
街全体としての計画
過去のデータに基づいた
水害対策



住民の判断基準

安全性
生活の便利さ
景観、臭いなどの五感
体験(遊び・人とのふれあい・
コミュニケーション)

- ・ 下水処理が万能だという誤解
- ・ 下水道に対する関心の低下
- ・ 住民の不満



**地域に根ざした、住民のニーズを
満たす感性社会資本が必要**

**感性社会資本: 五感を刺激し、感性(感覚・情緒)を満たし、
育むことによって、こころを豊かにする社会資本**

実現のためのシナリオ

・住民がかかわりやすい、

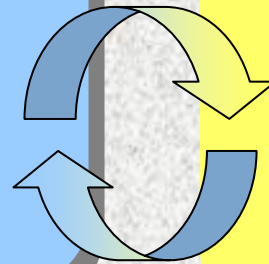
基盤となる感性社会資本の構築

・意欲と能力のある地域住民の積極的な参加・運営

行政

生活基盤ストック
の整備

市民のニーズに適った
**感性社会資本
の構築**



住民

地域の**環境整備・維持管理**を
住民が行なう

環境への具体的な
関心が高まる

行政による施策が
市民レベルで可能

- ・行政と住民が協力
- ・住民自ら造る

- ・身近な水辺の創造

双方の考え・ニーズが伝わり、実現しやすい。

愛着が増し地域社会の責任感が生まれる(継続的な管理等)
地域間の関係が向上し、防犯や福祉等の他事業につながる。
地域の歴史や文化などを生かした水環境(まちづくり)の創造
災害時の緩衝帯となる他、リハビリ空間や癒し等多目的な
用途が期待

効果

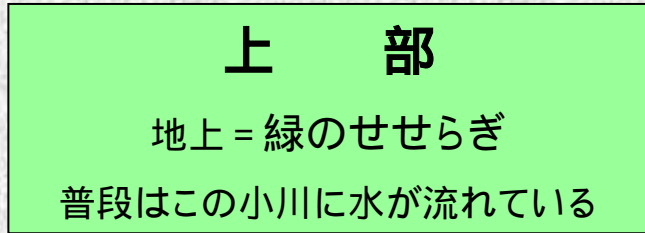
事例:

バツハココンセプト

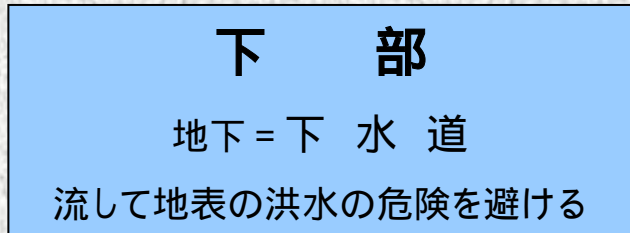
(小川開放計画)

チューリッヒ市

下水道を地下に流していた川を上部に、
汚水を下部に流す二階建構造

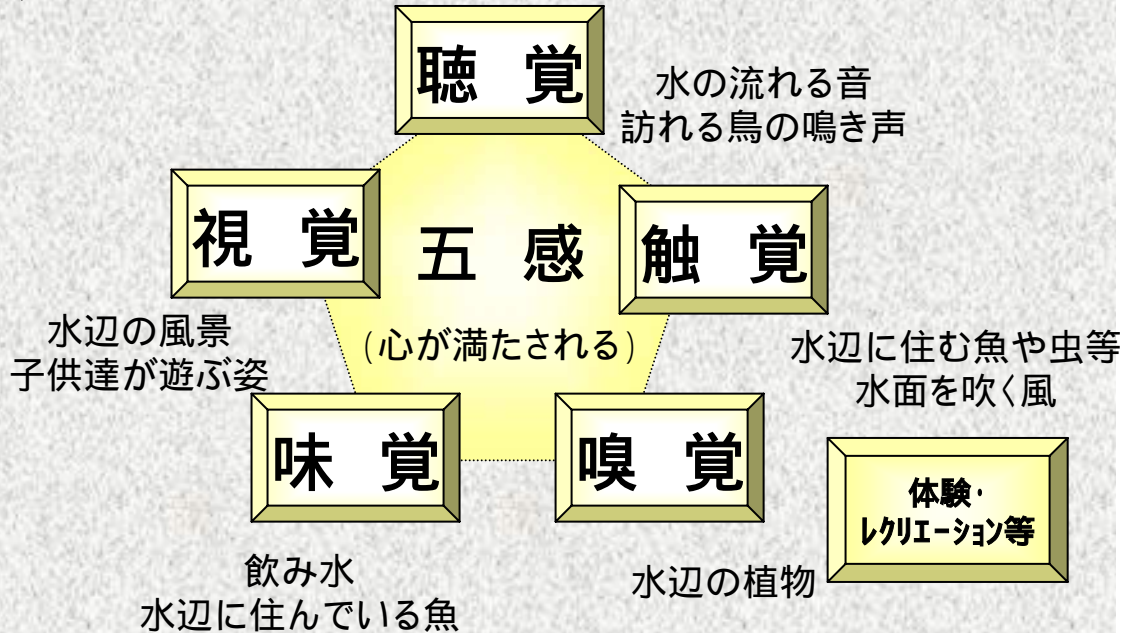


洪水等である一定
以上に水位が上昇
すると...



地上を流すための土地 民有地を利用

地域住民の協力が必要



・地上は小川で、市街地の中で、生物の生息空間を創出、人々の生活に潤いを与えている。

・地下に下水道としての機能を持ち、安全性の確保と共に住民や生物の生活環境も向上。